

山梨日日新聞

YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN

甲府

'08.7.-6



大規模開発に心懸る人に開発された高島平団地や、
 もいるだろうが、問題は多摩ニュータウンのよう
 の中身だ。今、大型シヨックに、同じ世代、同じ家族形
 ピングセンターが全国の郊外のみが集まった単層的な
 外に開発されている。その住宅地の現在の姿だ。幸
 近辺には住宅地も切り開かされたはずの均質的な街
 れ、田園風景は様変わりしては、いじめや自殺が社会
 ている。モータリゼーション問題化したこともあった。
 ヨン、大量流、今や街全体が高齢化し、そ
 通、消費、とここで育った子供たちも住ま
 開発している。山万俵はい
 つまでも住み続けられる
 街」をつくり、「住人一人
 ひとりの幸せ」を旨指して
 いる。彼らは分譲撤退型の
 デベロッパではなく、街
 の成長管理型デベロッパ
 を自任している。
 人間の微細な感覚や心情
 は、環境の複雑さから生ま
 精神心理学のフロイト、科
 学哲学のホバーといった二
 十世紀の碩学(せきがく)を
 生み出したのは、ラントマ
 ンなどのカフェにさまさま
 な専門の人々が集まったか
 らだ。大阪の家具問屋街堀
 江町は、建物のリノベシ
 ヨン(既存建物の低価格な
 改修)によってカフェやブ
 ティックの街へと
 変ぼうした。ニュー
 ヨークでは食肉

多層異質な創造都市

青木 茂樹

変ぼうした。ニュー

いった二十世 ない街となっている。
 紀のアメリカ 今の開発は同じスキーム
 が描いた豊かさだ。資源の 多様な生き方が入り混じ
 高騰が続く中でモータリゼ 後に跡地となった駐車場の
 ーシヨンはやむことを知ら アスファルトからペンペン
 ず、二酸化炭素(CO₂)削減 草が生えていないことを折
 滅の時代に夜に光輝く街が るばかりだ。
 郊外に広がっている。 私が言った千葉・ユウカ
 懸念するのは、昭和三十、 リが丘は、一九七一年より
 四十年代に近代化の名の下 大規模な宅地をゆっくりと
 紀初頭のウィーン大学が、 院大教授)

れる。私は、多層な世代や センターのリノベシヨンの
 が成功し、最新トレンドの 発祥ともなっている。
 おいする街にエネルギー コンパクトで歩き回ること
 を感じる。知識創造社会へ とができ、多層な人々の集
 と産業社会が移行する中 まる中心街には、人の交
 で、異質な情報交流の場」 流、知の創造へ向けた街
 が大切だ。 つくりこそが望まれる。
 (駒沢大教授、前山梨学
 院大教授)